令和６年度　宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校（定時制）　【自己評価及び学校関係者評価】

《　４段階評価　　４：期待以上　　３：ほぼ期待通り　　２：やや期待を下回る　　１：改善を要する　》

教育目標
　１，知徳体の調和のとれた人材の育成を目指す。　２，校訓「正義」「寛容」「実行」を具現化し、２１世紀を担う人材の育成を目指す。

重点目標	評価項目	計画(Plan)	実行(Do)	評価(Check)		改善(Action)	学校関係者評価	
		重点努力目標（評価指標）	方策・手立て（数値目標）	学校自己評価	総合	結果と考察・改善	評価	評価コメント （評価できる点、改善して欲しい点）
基礎学力の定着	基礎・基本の定着	①「面白くてためになると生徒が感じる双方向的な授業」を創造する。	・授業参観週間の計画運営と職員研修（ＩＣＴ活用含む）の充実を図る。 ・基礎学力テストを計画的に実施し、生徒の実態を把握するとともに、指導の指針を共有する。 ・ＩＣＴ教材の活用により、効率的で五感にうったえる授業を実践する。	3.0	3.0	・基礎学力テストは実施から成績処理、成績上位者の表彰までを計画的に行い、生徒の実態把握にもつながった。授業参観週間は昨年度より３名多い２１名の保護者等の参加があった。 ・ＩＣＴの職員研修を５回実施できた。各教科ともにＩＣＴを使って内容を工夫している。さらに深化を図りたい。	3.6	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。 ・いろんな工夫をされていて素晴らしいと思う。 ・生徒の性格や特性に応じた授業の進め方をされているように感じた。今後も都城唯一の定時制高校として引き続き運営していただきたい。 ・バラエティに富む生徒を前提として基礎学力向上に努力されておりその一端が認められる。
		②個別指導の充実を図る。	・考査前指導を年4回計画し実施する。 ・夏季講座として全職員が一人１講座を開設し、生徒の意欲喚起と学力の定着を図る。 ・奨学金等の情報提供を確実に行う。	3.0		・考査前指導は適切に運営できた。夏季講座は多くの生徒（延べ85名）が申込み、参加した生徒は熱心に取り組んだ。来年度も状況に応じて適宜実施したい。 ・ホームページも活用し、学生支援機構予約奨学金等の情報提供や推薦事務を適切に行った。また定時制特有の就学奨励資金等（就業条件あり）に５名を申請し利用させることができた。		
		③修学意欲の高揚を図る。 ・欠席・遅刻等の防止 ・欠点者の減少 ・単位の確実な修得	・新入生在校生オリエンテーションを計画し、スムーズな年度のスタートを支援する。 ・考査前指導を年4回計画し実施する。 ・学業に関する集会を実施して現状を生徒に伝え、今後の見通しを立てるとともにテスト後の指導の充実を図る。 ・単位未修得を防ぐための考査後指導を充実させる。 ・定通併修生への履修説明会を実施する。	3.0		・オリエンテーションにおいて単位の履修修得についての説明を行い、学習計画の充実を図った。 ・個別指導や学習に関する集会を通して各自の現状を確認させることで、学習意欲の喚起につなげることができた。今後も計画的に実施していきたい。 ・退学した生徒を除き、ほとんどの生徒が単位をすべて修得できる見込みである。 ・定通併修生に対しては、宮崎東通信制と連携して情報提供や連絡指導を確実に行った。		
		④検定指導の充実を図る。	・商業科全生徒に、最低年１回の検定受験を推進し、これを基に学業に対する向上心を育てる。 ・普通科・商業科の生徒に対して検定試験の案内を行い、受験生に対しては課外等を実施して指導する。	3.0		・各検定試験において、ほとんどの生徒が合格することができた。また、授業で行っていない検定試験においても受験者があるなど全体的に意欲的に取り組めた。 ・今年度は普通科の生徒の受験もあり、全員合格することができた。来年度においても検定試験の案内や指導を積極的に行いながら、生徒の検定試験への意欲を高めていきたい。		
人権感覚・豊かな心の育成	規範意識の向上と生徒指導	①職員の共通理解と共通実践を図る。	・生徒情報交換会を開き、生徒一人一人について職員間で共通理解を図り、全職員で生徒指導にあたる。 ・学年会を週１回の定例会とし、情報共有と職員間の連携を図る。	3.0	3.0	・生徒情報交換会により全職員で情報を共有できた。日常から生活指導を必要とする場面が多いので、今後とも全職員で情報を共有し、同じ方向性を持って根気強く指導することが大切である。	3.4	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。 ・定時制の存在意義が変わってきていると思う。 ・職員の日頃の指導により、礼節や対人に対する姿勢などの習得が認められる。さらなる心のこもった対応をしていただきたいと思う。
		②基本的生活習慣の確立を図る。 ・挨拶の励行 ・規律・マナーの厳守	・日々の声かけや集会時での指導、登下校指導、放課後の巡回指導、交通安全教室を実施し、マナーや交通安全の意識高揚を図る。 ・授業開始と終了の号令・挨拶を定着させ、休憩時間との切替や授業に集中する習慣を身につけさせる。	3.0		・集会時のあいさつ・礼儀に関しては私語もほとんどなくおおむねできている。 ・登下校指導、交通安全教室の実施など、全職員の協力のもと実施することができた。バイク通生の騒音について引き続き日常の指導を継続したい。 ・代議委員の号令で授業の開始が徹底できている。		
		③自主性・積極性のある生徒を育てる。 ・生徒会活動の活性化	・各種学校行事に対して積極的な参加を呼びかけ、生徒が自主的に企画・運営ができるように支援する。 （各種委員会を含む生徒会活動の活性化）	3.0		・予餞会やクラスマッチ等において、生徒会が中心となった運営ができた。また、各種委員会ごとに具体的な目標を立てて実践してきており、概ね達成できた。今後とも継続したい。		
		④環境美化意識の高揚を図る。 ・清掃の徹底	・清掃の出欠を取り、学校生活の基本的な活動としての位置づけを図る。また、本年度も清掃分担表・監督表を作成し、職員の清掃指導の共通理解と共通実践に努める。 ・職員が率先垂範して環境美化に努め、学習環境の重要性やゴミの分別・持ち帰りの指導を行う。 ・事務部と連携して照明や網戸等、学習環境の改善に努める。	3.0		・クラスの人数など考慮して、清掃分担表・監督表を作成して清掃指導を実施できた。 ・週２回の清掃活動を概ね実施することができた。 ・美化委員会を招集してゴミ分別・持ち帰りを呼びかけて実施することができた。 ・事務部と連携して学習環境の改善に努めることができた。		
		⑤道徳教育、人権教育、特別支援教育、教育相談を充実させる。	・生徒情報交換会を年間６回開催し、生徒情報を共有するとともに職員の連携と組織的な対応を図る。 ・教育相談係とハートサポーターを中心に教育相談週間を実施し、生徒一人ひとりの変化を見逃さないように努める。 ・いじめに関する対応の強化として、いじめ不登校対策委員会を開催すると共に、職員への共通理解を図る。 ・特別支援を必要とする生徒に対して、関係諸機関との連携を図り、効果的な支援を実践する。	3.0		・生徒情報交換会は全職員が参加して年６回開催した。情報共有と職員間の連携に大いに役立っている。 ・教育相談係とハートサポーター、生徒指導部、学級担任及び必要な関係諸機関と連携を取り、早期発見・対応につながっている。 ・いじめ不登校対策委員会は年間計画(全１２回)に沿って実施できた。また、全学年を通して個人面談を行い、いじめの早期発見に努めた。 ・特別な支援が必要とされる生徒への対応・支援等において職員間の情報の共有と、個に応じた支援の計画・実践ができた。		
		⑥健康安全教育を推進する。	・生徒全員に定期健康診断を受けさせる。 ・職員対象の救急救命法の研修会に生徒（希望者）も参加させて早期に実施し緊急事態の対応に努める。 ・薬物乱用防止教室を実施して生徒に薬物乱用の危険性を認識させる。 ・防災訓練を年2回実施して職員・生徒への意識を高める。特に、夜間の非常時に備え、懐中電灯を使って避難することの重要性を生徒に意識させる。 また、ストーブの安全な使用について、生徒への指導を徹底して行う。	3.2		・救急救命法の職員研修には生徒代表２名も参加し、消防本部から救急隊員を講師に招いて早期に実施することができた。 ・都城警察署に依頼して、危険ドラッグに関する講演を実施できた。 ・防災訓練は5月10月の2回実施することができた。消防隊員による指導助言・消防設備の業者を講師に招いて消火設備・消化器使用についての指導を受けることが出来た。 ・懐中電灯の定期的点検を行った。 ・使用規定を作成して事故防止に努めた。		
進路指導の充実	進路指導の充実	①キャリア教育を充実させることにより、進路意識の高揚を図る。	・４年間を見通した学年進行のプログラムを作成し、各学級担任と連携してＬＨＲ時に実施する。 ・都城市内の企業等から講師を招聘し、講義形式やグループ討議形式で「職業講話」を実施する。（全学年） ・進学ガイダンスや就職ガイダンスへの参加を促し、進路選択に寄与する。（全学年）	3	3	・各学年とも統一ＬＨＲの時期や内容を見直し、ＬＨＲ以外に設定されていた進路行事も含めて精選することができた。来年度もより効果的な内容や時期を設定していきたい。 ・都城地区の企業等の協力をいただき、職業講話を実施した。昨年度よりも少人数でのグループ討議形式を取り入れ、生徒もたくさん話せている様子が窺えた。 ・校外の各種ガイダンスの情報を昨年度よりも多く提供して参加を随時促した。複数の生徒がアルバイト等の予定を調整して積極的に参加していた。	3.2	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。 ・日頃から努力されている生徒が多く感心している。 ・様々な職業、就職、あるいは進学などに関して、多くの情報を提供していただく努力をさらにお願いしたい。
		②進路情報の積極的な提供に努める。	・「みやこんジョブガイド」や「高卒ＷＥＢ求人」、「Handy進路指導室」など求人情報や進学に関する情報を各クラスに適宜提供する。	3		・統一ＬＨＲで活用する時間を設定した。「Handy進路指導室」は今年度、全学年の生徒が使用できるようにした。来年度はより多くの生徒が学校以外の時間にも活用できるよう指		
		③職場訪問を実施する。	・就職状況アンケートや電話連絡等を行い、生徒の就労状況と職場環境を把握し、学業との両立を支援する。また本校の魅力を発信して求人の開拓に努める。	3		・今年度は就職状況アンケートにより生徒の就業状況の把握を行い、必要に応じて電話連絡や職場訪問を実施する形式で試行してみた。職員・企業側ともに負担が軽減でき、情報共有も十分行えたため、来年度もこの形で実施したい。またアンケートの回収率が上がるように、アンケート用紙の送付に加えweb上で回答できる様式も作成したい。		
		④教育振興会や関係機関との緊密な連携に努める。	・ＰＴＡ・教育振興会・同窓会・都城北ロータリークラブ・ふるさと育成協議会等と緊密な連携をはかり、各種の学校行事に積極的に参加してもらうようにする。	3		・各種学校行事に可能な限りご参加いただき、本校生徒の様子を見ていただく機会を作れた。来年度はもっと多くの方にご覧いただきたい。 ・宮崎県中小企業家同友会や都城北ロータリークラブのご協力により、人生の先輩方との懇談の機会をいただき、生徒たちが卒業後の人生に思いをはせることができた。 ・教育振興会会長や同窓会副会長の後任を快く引き受けていただき、新体制をスタートできた。また教育振興会の新規会員を募るため、説明やＰＲをする機会をいただけた。		